

## 発泡スチロール協会記者発表会開催

去る7月11日、霞山会館（東京・千代田区）において、発泡スチロール協会（JEPSA）の定例記者発表会が行われた。司会進行役には、廣瀬康弘同広報部長が担い、出席者の紹介及び配布資料等の確認及び説明後、開会し、まず柏原正人同協会会長が「はじめに昨年4月14日と16日に発生しました熊本地震におきまして多くの方が被災されました。また、私ども会員企業も被災され、改めまして被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。現地では被災された多くの方が避難所に避難されましたが、その際、JEPSAでは、地震発生直後から各地区の避難所にEPSボードを救援物資としてご提供させていただきました。その後避難所の閉鎖に伴いまして、廃棄されたEPSボードの回収、リサイクル処理を確実に実施することが大切であると考え、被災地の自治体と連携させていただき、EPSボードの回収、リサイクル処理を実施させていただいております」と冒頭で挨拶した後、「さてJEPSAでは旧JEPSRA時代に取り組んでまいりました発泡スチロールの再資源化に



左より、片岡副会長、柏原会長、武田専務理事



発泡スチロール製のイグルー  
（玉川高島屋S・Cで）

に加え発泡スチロールの需要拡大に向けた施策にも取り組んでいるところです。残念ながら昨年は前年よりも3%減の出荷実績となりました。その内容としまして、2016年の暦年における当協会の概略について説明いたします。まず国内の出荷実績は、合計135,270トン（対前年▲4,700トン）で、用途別にみますと、農水産合計の出荷量が74,800トン（対前年▲3,300トン）、家電等緩衝材分野40,250トン（対前年+600トン）、建材土木分野は20,220トン（対前年▲2,030トン）となりました」

### リサイクル率は、前年同等の6台を維持!

「続いて2016年の発泡スチロール再資源化結果についてご説明いたします。リサイクル率は90.2%となり、前年に引き続き90%の6台を維持し、前年と同等となりました。

次に、今年度の活動計画につきましては、輸出需要の伸びが期待できる農水産分野における輸出容器の占める工場向けの取組みとしまして、農業EXPOに出展し、EPSのリサイクル率の高さとEPSの魅力をPRしてまいりたい。またパリ協定の対応としてEPS断熱材を用いた場合の炭酸ガスの削減効果のPRを継続するとともに、EPS容器を用いた場合のLCA（炭酸ガス削減効果）の評価にも着手。これらの3つをもってPRしてまいりたいと思います。更に例年行っております、第17回発泡スチロールの日の関連の活動は、全国各地で今年度も開催し、団扇などのノベルティをお配りして地域密着型のPR、啓蒙活動に取り組んでまいります。また昨年実施いたしましたスチレンピックに関しましては、第2回目の今年は、全国大会規模で実施して参ります。最後に地球環境保全活動の一環といたしまして、シロクマキャンペーンを進めておりますが、今年で第10回目の開催となります。その他12月に東京ビッグサイトで開催されますエコプロ2017にも連続出展して参ります。プレスの皆様には、今年も記事発信のご協力を申し上げましてご挨拶と代えさせて頂

きます」と括った。

さらに会長の概要説明を補足するかたちで、同協会の武田専務理事から、より詳細な活動報告並びに活動計画がグラフや写真とともに配布資料に基づき行われた。また、廣瀬広報部長の方から、7月22日～8月16日に玉川高島屋S・Cで開催される、昭和基地開設60周年記念『南極・北極展』に同協会が協賛し、イヌイトの雪の家・イグルーの実物大展示やハッポウくんのパフォーマンスなどのイベント案内が付け加えられた。

記者発表後の質疑応答場面では、発言機会のなかった片岡孝次副会長に付度してか白羽の矢が立っていた。

「EM AND EN vol117 3ページ」